

# 中高生が小学生に伝える情報モラル教育の実践 ～ タブレットを活用したワークショップの実践研究を通して ～

代表研究者：熊本市立三和中学校 教諭 田中慎一郎  
共同研究者：中島沙知 宮津光太郎 古田光  
研究アドバイザー：桑崎剛

## 1 はじめに

情報モラル教育は現行学習指導要領から総則にも記載され、今日的で重要な課題である。しかし、その「教育実践」はなかなか進展していないという現状がある。その原因として以下が考えられる。

- 情報モラル教育の必要性をほとんどの教師が感じているが、指導法や知識が無かったり、機器をうまく使えなかったりして、進めることができない現状がある。
- 知識編重の情報モラル教育では、子供達は課題を身近なものとして捉えない。主体的な学びができない。

そこで、本研究は「いつでも・どこでも・だれでも」情報モラル教育を行えるようになり、実践が普及することを目的として以下で述べる実践研究を行った。

## 2 研究の仮説

- ① 単なる知識の講義、教授ではなく、異年齢集団による協同学習が子供の理解を深めることが出来る。
- ② タブレットを積極的に活用することで、生徒が主役となったワークショップの型を提示し、日常生活の場面で誰でもが効果的な情報モラルの実践力を身につけることが出来る。

## 3 研究の実際

### ① 中学と高校の連携～高校生が中学生に～

まず、高校生に研修を実施し、その高校生は中学校で実施された情報モラルのワークショップにファシリテーターとして参加させた。高校で抱える身近な問題を出し合い、解決法を中学生と共に考えさせた。また、数校の高校から集まった希望者が例会を開催し、ネットに関する様々な問題について議論を深め、その内容は、中学生に情報モラル教育で扱う教材として提供した。

### ② 小学と中学の連携～中学生が小学生に～

次に高校生と一緒にワークショップを経験した中学生は、今度は小学校に出向き、グループ活動の中でファシリテーターとして活躍した。また、他に身近なネットの課題を素材に、教材の開発も行った。作成した動画の教材は、小学校での情報モラル教育の学習教材に活用した。

### ③ 地域との連携～地域と共に取り組む～

今度は、地域の小学校の保護者研修会に中高生が出向き、自分達の現状や抱える課題について意見交換を行った。同一中学校区で小中共通の取組として、地域や教師も参加した子どもフォーラムを開催し、ネットに関する地域ルールの方策を行った。フォーラムでは、それぞれの立場で意見交換を行うことができ、それらの意見を元に地域ルールを考えさせた。同じ地域に住む小中高生が情報モラルで連携し、地域をあげて情報モラルの啓発を実施した。

### ④ タブレットの活用～子供の思考を中心に据える～

ワークショップを実施する際、子供達の考えが視覚化され、かつ共有できるようにタブレット端末を活用した。また、動画の撮影など、教材開発を生徒自らの手で行うことで、自分達の抱える課題と向き合い、主体的に情報モラル教育に携わっていく態度を育成された。タブレットを活用した情報モラル授業（ワークショップ含む）の型を示し、誰でも実践できる形を提案した。

## 4 成果と課題

以下に今回の実践における成果（○印）と課題（▼印）を列記する。

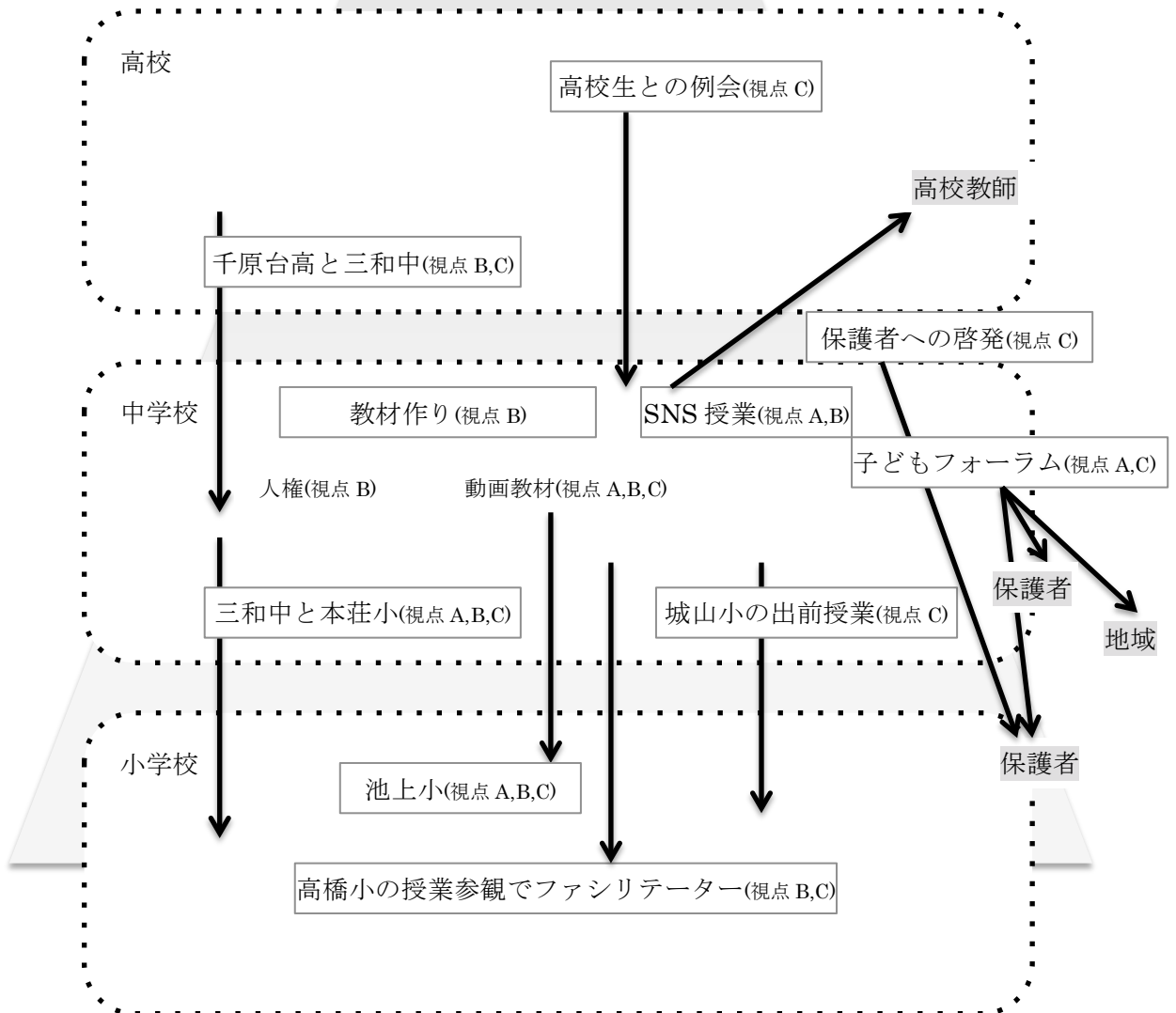
- ワークショップの型や身につける力を示すことで、情報モラル教育の実践がしやすくなった。また、生徒がファシリテーターとなることで主体的な学び合いが出来た。学校種を越えて情報モラル教育の実践を行い、教師に指導法の一つを示すことが出来たが、地域の情報モラルに関する関心も高まった。
- ▼高校生同士の連携が未熟で活動の幅を広げたい。情報モラルの実践力が培われたかどうか測定出来る具体的な指標も欲しい。今後、それについてガイドライン等の作成に挑戦したい。

以上、研究の概要を述べたが、生徒達自らが情報モラルに関して考える様に変容した姿は数値化出来ないが成果として大きい。小中高と連携し、地域をあげてこの問題に取り組むきっかけが出来たのも、今回の研究支援のお陰で、研究が緒に就いた貴重な機会となったことに深く感謝したい。

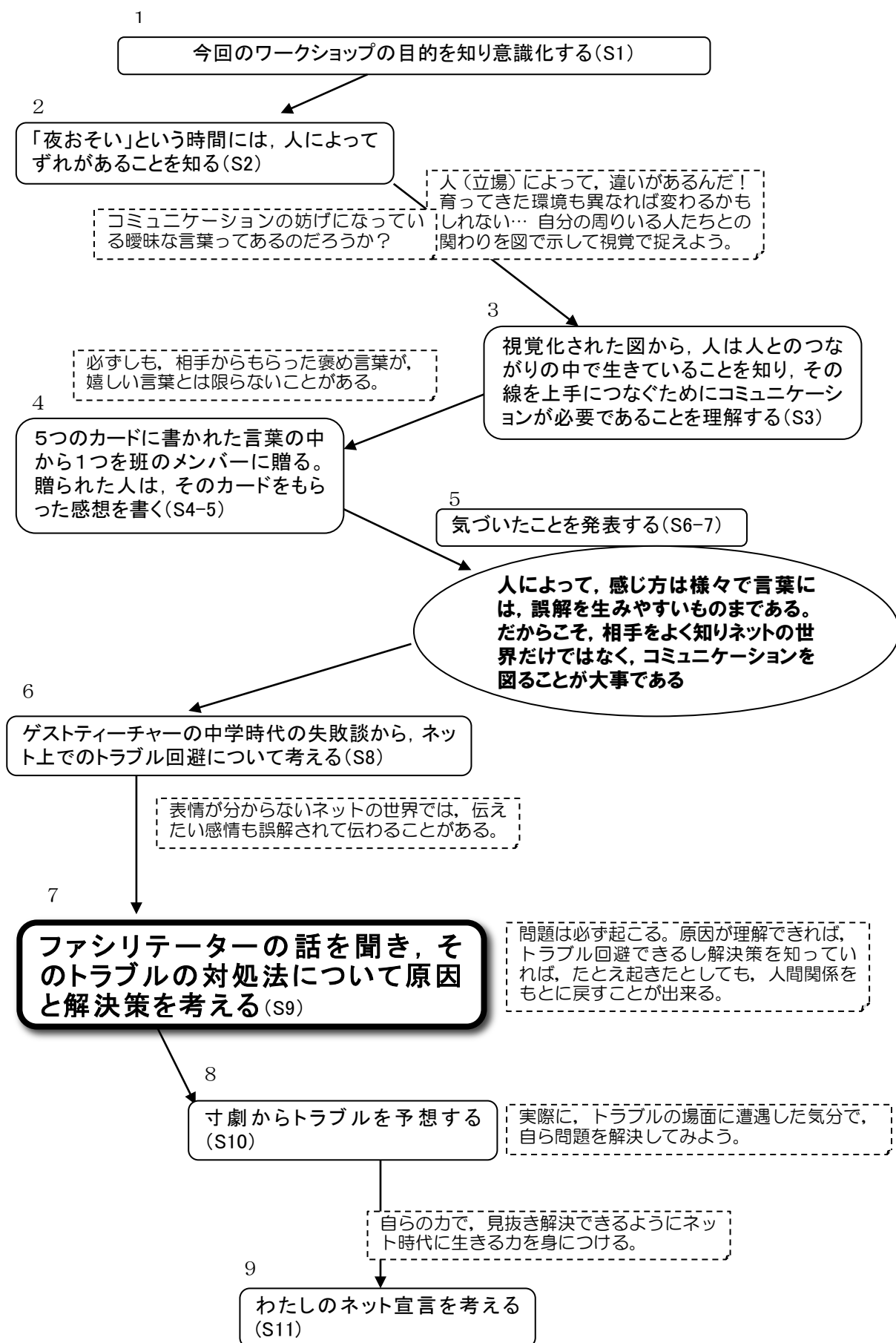
情報モラル教育の普及  
～いつでも・どこでも・だれでも～

(情報モラル教育が進まない理由)  
① 必要性を感じている教師は多いが、教育現場ではあまり実施されていない。  
② 理論や調査の研究はあるが授業の取組の方法など「実践的な研究」が進んでいない。  
③ 子供の心を変容させる道徳的視点の情報モラル教育の研究が欠如している。

- A) タブレットを活用し、場所を問わずに、誰もが気軽にできる情報モラル教育のワークショップの実践方法を提案する。
- B) 公立学校の子供たちに対し、ワークショップによる意欲が高い学習方法を実施することにより汎用的に使えるワークショップの方法を確立する。
- C) 上級学校の生徒が児童に指導する形式を取り入れることにより、児童生徒が自らの問題として情報モラルを考えられるようにする。



情報モラルワークショップ (構造図)



資料 3

情報モラルワークショップ（展開案）

1 目的

- ・ スマートフォンをはじめとするネットの利用の危険性を学び、その正しい使い方を考えさせる。
- ・ ワークショップを通して、人間関係や社会とのつながりを意識させ、正しくネット社会を歩む態度を育てる。

2 展開案

	活動	時間	進行上の留意点	備考
知る	1 今日のワークショップの目的を知る。	5	・ 何のためのワークショップか参加者に意識をさせる。	S1
	2 人によって時間の感覚の違いがあることを知る。	5	・ 具体的に、それぞれが考えた時間を提示する。	S2,WS1
	3 自分が周囲との関わりの中で生きていることを知る。	5	・ マインドマップを用い、自分と関わりのある人たちを視覚的に捉えさせる。	S3.WS1
	4 コミュニケーションが必要な理由について考える。	5	・ 感覚や考え方が異なる人どうしが、関わりを持って生活するためには、コミュニケーションが必要不可欠であることに気付かせる。	
体験する	5 班のメンバーに褒め言葉としてカードを1つ贈る。	5	・ 考えてみよう①の5つのカードの中から、班のメンバーに一番合ったものを褒め言葉として1つ贈らせる。褒め言葉のはずでも、相手にとったら嬉しくないこともあるということを体験させる。	カード① S6-8
	6 5つのカードを自分がもらいたい順に並び替えて班のメンバーに提示する。	5		
	7 班で話し合って気づいたことを発表する。	5		S9
	8 実際にネット環境での感じ方の違いを考える。	10	・ 考えてみよう②の5つのカードの中から、目の前のワークショップを進行している人が、嫌だと感じる行為について考えさせる。ネットの世界の行為でも、嫌と感じる行為は、人によって異なることを気づかせる。	カード② S10
	9 ここまでのまとめを聞く。	5		S11
	10 先生の体験談から、そのトラブルの原因と問題点を探る。	10	・ 表情が見えないネットの世界のトラブルであったことに着目させ、原因がコミュニケーション不足だと気付かせる。	S12
	11 ファシリテーターのネット上での失敗談を聞き、どうすればよかったか班で考え発表する。	20	・ 考えてみよう②の5つのカードにまつわるファシリテーターが体験したトラブルをどのように回避すべきだったか、班のメンバーで考えさせる。直接ファシリテーターと話すことで、問題を身近なものとして感じさせる。	S13
	12 実際にSNSでのやり取りの疑似体験をする。	10	・ 提示されたケースについてどのようにしたらよいか班で考えさせる。	S14
自分のものにする	13 寸劇を見てトラブルを予想する。	10	・ バイトテロも未来に対する想像力の欠如であることを伝え、トラブルを予想できる力があれば、起こる前に回避できることを教える。	S15-16 WS2
	14 「わたしのネット宣言」を考える。	10	・ みんなでルールを考えるのではなく、自ら宣言することで、しっかりそれを守っていこうとする態度を促す。	S17

今日の難しかった...  
んー...まあ使い次第で他人からの印象が変わる(いいやつ→悪いやつみたいなの)ことってよくあるなーって思ったり、いつもは深くは考えてないことでも自分のこととして考えると怖かったり辛かったりしてもっと普段から考えるべきかなーって思ったりしました！w  
現実の世界の人間関係がしっかりしていたらネットの世界でなんかあっても抱え込まなくてすむから、やっぱ、ネットの世界だけじゃなく、現実の世界での頑張りが大事なかなーって、現実でうまくできない人はネットの世界でもうまくできないだろおし、ネットどおちゃらの前に人間関係をどおするかも考えなければいけないかなって思う！  
解決策って言える解決策が思いつかなくて申しわけないんやけどさw

今回の話は解決策ってのは難しいからねー。確かに現実の世界でうまくやれる人はネットに依存せんでも普段楽しいから十分なんだろうし。でもさ、現実世界で上手くいってない人はネットでしか友達がいないわけだからそこは大事にしようって思うとも考えられるんよねー。やっぱさ顔見えんっていったってネットの世界でも気遣ったりするわけじゃん？まあ普段目立ってないけどネットではっていうところがいばりかな。自分の存在を認められたい的な？笑笑  
やっぱさ、現実世界で愚痴とか相談とかいえる友達をつくるのが1番なのかなー？

んー難しいわww  
確かにネットの世界だけの人は救えないって言うのと一緒なのかな...  
依存しすぎるのも怖いよね...

そーねー。でもネットがなかった頃はその人は居場所なかったわけだから、ネットに救われる部分も絶対あるもんねー。

今は母子家庭のところとかが増えている実態で子供と連絡を取らないといけない家庭とかがあるから全面的に禁止にすると困る家庭があるので全面禁止はダメだと思う  
P.T.Aとかは両親がしっかりいて厳しいところが多いので、少しでも危ないならスマホ禁止！とか言うからそれを聞かないことは出来ないかもしれないけどそういう家庭ばかりじゃないスマホが必要な家庭もあるということを知ってほしい

今の学校の先生でもLINEを面倒くさがって入れてないという状態にびっくりした  
禁止って言うならちゃんとそれを使ってこようところがダメだとちゃんとわかった状態でそういうことを言ってほしい

熊本が規則めっちゃゆるくて石川がめっちゃ厳しいらしいもん  
いるんなことで  
だけん熊本で問題が起きなければ規則がどんどん緩くなるらしい  
また、その反対もあるから問題は起こさないようにしたいね

いずれスマホは持つとくべきアイテムだから今のうちに調べ方とか使い方、悪いサイト、ToLOVEの対処方法を知るとくべきだと思う  
大人になってからスマホを持つとただでさえ仕事とか生活するのに大変なのにそれプラススマホの使い方を勉強しなきゃいけないとなると時間ももったいなくぜったいうまくいかない  
すでに使い方を知っていると覚える時間はおるか生活のことも調べることや生活に便利になるスマホの使い方とかができるから絶対今のうちに使い方を覚えておくべきだと思う

SNSをするってことはたくさんの人と関わりを持つってことだからトラブルが起きることはしょうがない事だと思う  
人や話すグループによって話方を変える  
臨機応変に対応すべきでか、する力を学ぶべき  
それが出来ないとのにされやすい  
嫌な事があった時話せる友達がいるとかなり楽になるからリア友は必須

Twitterの投稿に関してはTwitterの性能や使い方その他危険な点をしっかり理解すべき  
(学校の授業やなんか企画で劇などすればなお良い)  
それで、怖いと思ったら常識のある友達にのみ見せるとか、広まらないようにすべき  
それでも載せるってなら炎上されても平気な心を持つ。てか、炎上されないように面白いのをつくる工夫をすればいい

- 私も今日の活動で『ネット友達を増やすことによりリアルな友達をなくしてしまう』というのがとても印象的でした。“友達が増やしたい”という安易な考えだけで行動して、そばにいる人達が見えなくなり後から後悔するような人が少しでも減ってほしいと思いました。だからこそ、次回の小学校での活動は是非参加して情報端末をまだ持っていない子達の保護者の方たちに少しでも今の現状について知ってもらい、大人の方にも理解を深めてもらわなければならないと感じました。今日の動画では宣伝をする側が先にしてあげようか？てなっていました但实际上は宣伝してもらって側から頼むことがよくあって、断りきれない現実もあります。宣伝することが悪い事とは言いませんが画像の流出は自己責任になるのでせめて自分しか載っていない写真にするなどの考慮が必要だとも思いました。

- 今日の感想いきます！今日はネットでの悪口とかいじめとかの話と個人情報について話して、みんな個人情報の重要さを理解してないから簡単に悪口とか個人情報とかを書き込んでしまうんだと思いました。ももちゃんが言ったようにこれから携帯とか使うようになる世代の子達には早めに話しておくべきだし、LINEとかTwitterとかきちんとした使い方とか危険性を知っておくべきだと思います。先生が見せてくださった動画はほんとわかりやすかったので、見る方も実際に体験したようにイメージがつくようにすることで考えも深まると思います。個人情報を他の人に見せるということは自己責任だと思うので、ほかの人を載せるのはまずしないようにして、友達もとなると確認をとることは大前提だと思います。ネットでの友達を増やすよりリアルな友達一人一人を大切にすることを伝えていけたらなと思いました。次回小学校でする時は保護者の人にも伝えられたらなと思います！
- 今日は情報モラルに関して初めて誰かに伝えるということで、自分たちが今まで話し合ってきたことをちゃんと話しきれなかったなと思いました。中学生がいたことで中学生と高校生の比較もできたと思います。小学生となるとまだ関係ないことのように思いがちだけど年とか関係なく考えるべき問題だと思ったし、親も自分の子供に正しく情報を教えられるように理解しとくべきだなと思いました。それぞれの家庭でのルールを作ることで危険性は低くなるし、LINEやTwitterにそこまで依存することもないと思います。今日聞いてくださったお母さん方は少なかったけど、これからたくさんの人に聞いてもらって理解してもらえたらと思いました。
- 私の感想いきます！（笑）現実ではいいやつであってもネットの世界で悪気があったわけなくても悪者になるっていうのはそうなんだなって思ったし、やっぱり表情がよめないから普段言えないことも言えるようになってしまうのかなって思いました。私が今日話したことでもそうだし、みうだって自分からしたらそう悪気があるわけではないかもしれないし。自分を見てほしいって思いがあってネットでの書き込みは誰にでも見られるっていうのをきちんととらえられてないから、みんなに見てもらえるっていう感覚でコメントや書き込みをしてしまうのかなと思います。法律違反のをネットに載せるのも、それにウケてくれる人もいて、それで自分の存在を認めてもらいたくて、でも結局は自己満足のためだから、うまく自分という存在を周りに見ってもらえてない人がそういうことをしてしまうのかなと思いました。
- 田中先生が話を聞きにいかれた講演のは私もそれは違うって思ったし。その講演する人のいうことは間違ってるというわけじゃないけど、それが解決に繋がるとは全く思えないし。おなじような事例でも全く同じじゃなくて、状況とか相手とかで全く違うから、解決策といっても一つの例でしかないと思います。でも私たちが情報モラルについて考えてそれをみんなに伝えればネットに関しての意識がきっと変わるだろうし。みんながネットのプラスの面を正しく使えるようになればとおもいました。

資料 5

情報モラルワークショップ（構造図） in 本荘小学校

～中高生が今、ネット社会の入り口に立つ小学生に伝えたいこと～

ワークショップの2本の柱

- ① 炎上疑似体験
- ② 中高生による教材開発

WS は  
LIVE 感が

体験を通しネットの特性を知り 5つの「正しくインターネットを使う上でのルール」を考える。その後、身につけた力を活用して、中高生が考えた課題（危険予知ディスカッション）を解決する。

【身につけさせたい2つの力】 → A 危険をイメージする力と B 起こった課題を解決する力

A…ネットの特性を知る→イメージできれば回避ができる

B…ネットで起きた問題は必ずリアルで解決

「正しくインターネットを使う上での5つのルール」

- 1 個人を特定できる情報は載せない
- 2 知らない人とは会わない
- 3 誹謗中書しない
- 4 個人間での売買はしない
- 5 肖像権、著作権を侵害しない

提供:GREE

学習活動	目的及び授業者の動き
<p>①チャットで楽しんじゃお！（10分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5班をそれぞれ2つに分け5×10の班を作る。GREEのIDを20個提供してもらい、20台でひとつのチャットを実施。10台はタブレットで、小学生が教室で使用。残り10台は大人が別室で操作。大人は、自分のノートパソコンを使用する。</p> </div> <p>②あれ！？なんだか楽しくない…（20分） ↑チャット炎上中</p>	<p>☞ 最初は楽しくチャットの記事体験をさせることでネットの楽しさを伝える！しかし…</p> <p>☞ 10台のパソコンを使う大人たちは別室で操作し、5つの罠をしかける。大人達は、別室で相談しながら上手にチャットの流れを操作する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">5つの罠</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>I 個人情報聞き出す</li> <li>II リアルに会う約束を取り付ける</li> <li>III 悪口を放ち自分を攻撃させる</li> <li>IV 個人売買を持ちかける</li> <li>V 写真を遅らせる</li> </ul> </div>

学習活動	目的及び授業者の動き
<p>③楽しいはずのチャットがどうして楽しくなくなった?? [ネットの特性を知る] (20分)</p> <p>教えるだけでは、知識は頭に残るが、心には残らない。体験すると知識が心にとどまる。</p> <p>④チャットの内容を振り返ってネットを正しく使うための5つのルールを考えよう (20分)</p> <p>⑤発表して「本荘小 正しくインターネットを使うための5つのルール」を完成させよう! (10分)</p> <p>⑥それでは、力試し! 中高生が考えた課題についてトラブル回避と起こった場合の解決の仕方を探ってみよう。(20分)</p> <p>⑦発表しよう! (10分)</p> <p>⑧まとめの話を聞く (10分)</p>	<p>☞ 黒板のところに用意したスクリーンに流れを映し出す。ひとつひとつ炎上に至った理由を考え、班ごとに中高生をファシリテータとして問題点に気づかせる。(画面を使って検証)</p> <p>☞ ファシリテータを中心としてルール作りを行う。5つのグループを2つに分けているので、5種類×2のルールが出てくる。ルール作成のポイントは、「どうしたら回避できたか?」ファシリテータは、それを小学生の口から出させるようにしなければならない。それができれば、「それをしない」というふうにすればルールは簡単に完成する。</p> <p>☞ 前述の GREE が提供する 5 つのルールを子供たちが作成していくところが大切。ゼロから作るのではなく、気づかせ、それを自分たちの言葉にして表現させなければならない。</p> <p>☞ 中高生が考える教材 (デジタル紙芝居) に挑戦させる。教材はファシリテータ養成セミナーで作成。</p> <p>☞ 教材は、スクリーンにつないでいる PC にあらかじめ準備しておく。全員で教材を見せながらトラブル回避と対処法を学習させる。</p>

ワークショップの最初にアイスブレイキングとして手品を準備。まとめのところで、種明かしをする。「手品には種も仕掛けもある」 ネットも同じ、楽しいだけではなくその裏には、子供たちをトラブルへいざなう種や仕掛けが存在する。その特性をしっかりとって使えるようになることが大事であると伝える。種や仕掛けを知っていれば騙されない。ルール作りは、騙されないためのマニュアル作り。それらのことを中高生が小学生に伝え考えさせる場にしたい。



資料6

シナリオ番号1 個人を特定できるような畧を張ってほしい

シナリオ番号3 誹謗中傷をあおってほしい

1-2

子ども	大人
☆写真を撮らせる 変顔、いじめなど疑われるような写真	
☆ネットにUPする(何人かの写真)	
	○写真に対して おもしろいね、～いいね、みたいな感じで思ったことを一言入れて下さい
☆大人たちからいろいろ聞かれる 年齢、学校名、どこ、名前、学年(誕生日)、 クラス →全部に答える→仲良くなる	
	○私達に何年生かをきいた後に自分の年齢 (同じ6年としてキャラお願いします)も書いて下さい
	○いろいろ詳しく聞く ※私達からもいろいろ聞きます (同じ校区に住んでいる設定)
☆話題が写真に戻る	○話題を写真に戻して、イラッとさせるコメント 写真の特徴みつけてバカにする ※良い人からどんどん悪い人にかわって下さい
(おそらく小学生から暴言)	
	○ごめんと一言謝る ※暴言を5個以上言われた時点で
	○また仲良くなる

会話例

子ども	大人
	めっちゃおもしろいじゃん! 何年?
○年	
	マジッ! おれも○年だよ! どこ小ッ?
○○小	
	近いじゃん

## シナリオ番号 1 個人を特定できるような罫を張ってほしい

1-4

子ども	大人
【写真】	
	その写真、どこでとったの？ おもしろいね。
〇〇小学校です。	
	小学生なの？ すごいね。いま何年生？
〇年生です。	
	あっ年近いじゃん。私は〇年生！ 名前は〇〇〇〇よろしく！
私の名前は〇〇です。僕の名前は〇〇です。	
	そうなんだ。何か部活とか習い事とかしてる？
〇〇部に入っています。	
	私も！ 何か気が合うね。もっとなんか教えてよ！ 誕生日いつ？
〇月〇日！	
	もうすぐじゃん。何かほしいものある？ プレゼントするよ！
いいの。ありがとう！ 〇〇〇が欲しいな。	
	<b>OK!</b> でも、〇〇ちゃんの家知らないから住所教えて！
〇〇市〇区〇〇〇〇だよ。	
	分かった。でも道に迷ってしまうかもしれないから電話番号教えて。
〇〇〇 - 〇〇〇	

自分がしていること（部活、ゲーム、遊び）など

子ども	大人
【写真】	
	僕、空手やってるんだー 君、何かスポーツやってる？
僕は〇〇やってるよ。（野球の場合）	
	おお～すげー どこでやってるの？
××小でやってるよ。	
	ああ～！ しってる～！！ そこ強いチームだよね！
ありがとう～。 この間は〇〇小に勝ったんだよ～。	
	いま何年生？ どこ守ってるの？
6年生だよ。〇〇守ってるよ。	
	本荘小の6年の担任の先生って〇〇先生じゃなかったっけー？
ちがうよー。〇〇先生だよ！	
	あ～。その〇〇先生知ってるよ！ 今度〇〇先生に会ったとき、君のことを伝えておきたいと思うんだけど、名前何ていうの？
〇〇 〇〇だよ！	
	ありがとう！ またね。

子ども	大人
(楽しい (おもしろ) 写真をとった後) (中学生: 楽しかったね。 一番いい写真ネットに載せようよ! 小学生: うん。)	
<b>【写真】</b>	
	うわ、めっちゃ楽しそうじゃん。何の写真撮ってんの？
楽しい (おもしろ) 写真です！	
	おもしろいね。そこに俺も行ってみたいなあ…。
(小学生: なんか危険で、どうしよう…。 中学生: やばいよ、やばいよ…。 でも 5~6 にんぐらいの団体で行ったら 大丈夫じゃね! ? 小学生: そうかなあ…。)	
(中学生: ちょっと集合時間と場所をずらし て来た人を見て、大丈夫そうなら行っ て、ちょっとやばかったら、止めればい いじゃん! 小学生: そうだね!)	
場所は、○○の××に、 時間は、△△:△△に集合でお願いしまーす。	
	うん、分かった！
OK。じゃあね〜♪	
	あっ、ちょっと待って！ メールをしてたら、メアド教えて！ メールしてなかったら、家とかの電話番号教えてくれない？ 君としゃべってたら楽しいから、もっとしゃべりたいんだ〜♪
うん、いいよ。電話○○○ - ○○○○だよ。 たくさんおしゃべりしようね。	

## シナリオ番号 2 リアルに会う約束をしてほしい

## 2 - 11.

おもしろい写真をネット上にアップして、それを見た芸能人からメッセージがくる。

子ども	大人
【写真】	
	その写真おもしろいね！ 僕、芸能人の〇〇です。僕も一緒に写真とりに行きたいな。今度会わない？
	集合場所を決めたいんだけど、家の近くがいいよね。家はどのへんにあるの？
	連絡とれないと不便だから、家の電話番号教えてよ
	あだ名つけたいな。名前を教えて
	学校ではなんて呼ばれてる？
	仲の良い友達って何人ぐらいいるの？
(もし危ないかもと思われたら、 「せっかくのチャンスだよ。芸能人だし会ってみたら？ 遠くから見とってうそだったら帰ればいいし」)	
	待ち合わせしたときに誰かわかんないから、写真送ってくれる？
	(逆に写真送ってと言われたら、ネット上にアップされている芸能人の写真をダウンロードして送る)
	僕、このゲームやってるんだけど、やってる？
	やってるなら仲間に入れてよ！
	じゃあ、ID 教えて

子ども	大人
	(学校などを聞き出してから、以下の話題)
	・家の近くだけど、行ったことないから、案内して！！
	・カードゲームのカードをあげるから会わない！？
	・その写真どこでとったの?? その写真すごいね! 私もとってみたいから、今度一緒にとろうよ! その場所で、私も写真とりたいたから案内してほしい!
	・中学で一緒になる学校だね! 中学校になる前に仲良くなりたいたから、今度遊んでみようよ!
	(以下アーティストの話題)
	誰か、好きなアーティストいる??
	私もそのアーティスト好き!! コンサートとか行ったことある?? CD 持ってるけど、あんまり聞かないからいる!? 誰が好きなの?
	コンサートのグッズあまってるんだけど、いらない?
	じゃあ、今度会おうよ!!

子ども	大人
	・悪口を放ち自分を攻撃させる（挑発） ・ゲームの話
	「レベルいくつ？」 「まだそんなレベル」 「おっそ～ww」
	「(レベルやアイテムなど) あげようか？」 「でもな～…。」 「やーめた w!!」
	・と、なって、ケンカごしになってしまう。

ネットからのスクリーンショットで、自分は持っていないグッズを売り込む。

定価より安く表示して、相手に買いたいと思わせる。

小学生だったら ・ようかいウォッチ→メダル、時計 ・プリキュア ・仮面ライダー ・カード

子ども	大人
	※自分のプロフィールを表示する 20代、男性 あだな ジバニャン 住所をザッと書く ○○の近くに住んでいます。 一言、全部のメダルを持ってるよ～（ハートマーク） メダルのレベル 99
	たくさん買いすぎて、あまったからいる？
	いまなら、半額で買えるよ
	家に届けるから住所を教えて
	くわしい話をしたいから メールアドレスを教えて
	（メールアドレスを利用 質問をする 「何才なの？」「家族は何人？」「学校はどこ？」）
	今、何のメダルがほしいの
	持ってるメダルの写真を送って
	このメダル？
	2枚もってるから1枚あげるよ
	メダル交換したいから今度会わない？
	レアなメダルもあるよ
（写真をもらう 写真を送る）	（ネットで自分じゃない写真を自分とって、相手に送る 相手からも写真をもらう）
	かわいいね or カッコいいね かわいいから、もう1枚あげるよ
	（コミュニティを作って、その子の友達も入れて、メダルの話を する。そこでも友達の情報も聞き出す。）



シナリオ番号 2 リアルに会う約束をしてほしい

シナリオ番号 4 リアルな金銭のやり取りを持ちかけてほしい

4&2 - 22.

子ども	大人
・妖怪ウォッチ（つばい）の写真を撮らせる →アップさせる！	
	<してほしい質問> ① 妖怪ウォッチ好きなの？ ② 私の弟も好きなんだけど、レアメダルを同じやつを買いすぎちゃって困ってるんだけど、200円で、買わない？ ③ 妖怪ウォッチのDSの「真打」、もうやった？
(答えが「やってる」の時)	④ あれ、楽しいよねー！ ⑤ Sランクの妖怪、どれもってる？ ⑥ 私、赤おにも青おにも山吹おにももってるよー♪ ⑦ 交換してあげよっかー？ ⑧ じゃあ、私、今、本荘小の近くのエブリワンにいるんだけど、今日の4時頃、来れる？ ⑨ そこで、DSしようよー（笑顔の顔文字）
(答えが「やってない」の時)	④ 丁度、カセット1コ余ってるから、メダルも合わせて、2500円でゆずるよ！ 安くしとくよー ⑤ じゃあ、私、今、本荘小の近くのエブリワンにいるんだけど、今日の4時頃、来れる？（⑧と同じ）

## 小学生・若者っぽい言葉

- ・「～じゃね？」
- ・「～だよね～」
- ・「それな♪」 そうだよねという感じ。
- ・語尾に「w」をつける。笑という意味
- ・敬語ダメ
- ・絵文字を語尾に使う
- ・「顔文字」「??」「!!」
- ・「私わ」「は」ではなく「わ」&「わ」
- ・「あいうえお」を小さく（捨て仮名）する。
- ・語尾をのばす「ー」「～」  
（例）「わたしわぁー」「そうだねえー」

## シナリオ番号5 リアルな金銭のやり取りを持ちかけてほしい

なし

資料7

ねらい

ネットの特性を学び個人情報の扱いについてその危険性を知る

時間	学習活動	支援	備考
5分	1 事前に撮影した4枚の写真を用いて自分たちの小学校を紹介する。	● 知らない人に自分たちのことを伝える楽しさを知る。	印刷された写真
5分	2 学校のホームページに載せる写真を一枚選ぶ。	● 選んだ理由について考えさせる。 (ネットにあげる時は必ず1度立ち止まって考えることが大切) ※ ネットに掲載する場合どんなトラブルが考えられるか中学生を交えて班で考えさせる。	黒板に掲示
10分	3 中学生に実際に経験したトラブルを聞く。	● ネット掲載に関する中学生のトラブルを聞き、どのようにしたら回避できたか。また、どのようにして解決するか考えさせる。	班別協議
10分	4 同じ小学生が体験したネットでの炎上のやり取りを見る。	● 自分たちにも十分に起こりうることとして身近に感じさせる。	テレビ画面 (スライド)
10分	5 よりよくネットと付き合うために自分が考える「私のネット宣言」をつくる。	● 自分自身が考えることが一番大切であることを伝える。	ワークシート
5分	6 まとめの話を聞く。	● 以下の点に留意しながら学んだことをまとめる。  <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ネット上の情報は一生消えない。</li> <li>➤ 掲載して良いのは、玄関に貼ることのできる情報だけ。</li> <li>➤ 写真から自分の位置を特定される。</li> </ul> </div>	プレゼンソフト

## こんなはずじゃなかったのに…

中学校 2 年生の私には、特に仲の良い 3 人の友達（紀子・幹夫・幸）がいる。私たちは、小学校の頃からいつも仲良くしている 4 人グループだった。

そんなある日、そのうちの 1 人、紀子が引越しをすることになった。私はとても寂しくて、他の二人と共に計画して、「紀子のお別れ会」をすることにした。

お別れ会は、とても盛り上がった。たくさんしゃべり、笑い、楽しい時間を過ごした。「悲しい時だからこそ、変顔を撮って残そう！」という幹夫の提案に、恥ずかしかったけど私もとびっきり笑える変顔で撮影した。みんな笑顔で、離れても一生付き合える 3 人に会えたことが嬉しかった。一人は離れることになるけれど、この先も LINE で連絡を取り合えるので、寂しさは少し紛れた。幸は、LINE でグループを作ることを提案した。私は、学校で止めるように言われていたので少し抵抗があったが、寂しいし、みんなで連絡を取り合えるからと思ってグループに参加することにした。

紀子が転校してから 1 週間。毎日繰り広げられるグループトークが、私は楽しくて仕方なかった。そんな時、転校した紀子が、そのグループ上にみんなで撮った変顔の画像をアップした。「これを見ると笑えて元気が出る」とコメントしてあった。私は、変顔の写真は、本当は撮りたくなかったので、アップされることに少し嫌な気持ちになった。でも、紀子を勇気付けられるし、グループ内でのやり取りだからまあいいかと思い直すことにした。グループトークでは、紀子の画像アップをきっかけに、その時の写真や他の知らない人の変顔が載せられるようになった。みんな、それぞれその写真にいろんなコメントをつけるようになっていった。

それから数週間後のある日突然、先生から声をかけられた。「ある生徒が、学校にスマホを持ってきたんだけど、その中にあなたが変な顔をして撮った写真が加工されて保存されていた。この写真に身に覚えはないか？」と聞かれた。頭の中が真っ白になった。先生の話では、その写真は、すでに複数の男子が持っており、誰が持っているかわからない状態で、すべての人から削除するのは難しいとのことだった。グループ内のいったい誰が… その日から、仲よし 4 人で作ったグループは開いていない。コメントの数は毎日増えているけど、何が会話されているのか怖くて見られない状態だ。最近では LINE の着信音にビクビクしてしまう。それ以来、幸とも幹夫とも口を聞いていない。もちろん、紀子からの電話も取ることができない。

その数日後、別の友達からスクリーンショットで撮られた、自分が参加していないグループのトークが送られてきた。

「変顔しなくても変な顔なのにウケます！少しは、ましな顔になるように加工してあげました ww」

お別れ会で撮った写真が、何枚も加工されている。そのグループに誰が参加しているのか、そんな酷いことを書き込んだのは誰なのか… グループを作ることはだめなので、先生にも相談できない。親にだって、自分がばかにされているようすを知らせたくない。仲よし 4 人組もすでに私の中にはなくなってしまった。私を中傷しているのが、誰だかわからない… きっと、教室や廊下ですれ違っているにちがいない… 私は、明日学校を休むことにした。理由は、親には言えない… 私の人生は、どうなってしまおうのだろう。こんなはずじゃなかったのに…

## 「こんなはずじゃなかったのに」

年 組 番 ( )

- ② タイムマシーンに乗ることができるとすれば、あなたはどの場面に戻りますか？

- ③ タイムマシンを降りた場面で、Cのやり方で相手に対してメッセージを伝えよう。

3タイプの自己主張

A…自分が我慢をする。 B…相手のダメなところをとにかく攻撃する。

C…相手の気持ちを聞きながら、自分の考えを伝え相手を納得させる。

(自分のメッセージのポイント)



- ④ 学習を終えての感想

**目標** ネット上でのトラブル発生の仕組みを知り、アサーティブな表現を用いることで、自分だけでなく友人もネットトラブルから救う力を養う。

学 習 活 動	時間	○教師の支援	備 考
1 ネットの便利さや楽しさについて	3分	○問いかけへの反応が薄い場合は例を提示し、資料へ入りやすい雰囲気を作る。 ※「注意の仕方」を学ぶことも伝えておく？	
2 資料「こんなとき、どうする？」を読む。	5分	○身近で起こった経験と重ね合わせながら読むよう、助言する。	資料①
「LINEのグループに入ろう」と誘われた時、あなたがDさんだったらどうしますか？			
① 自分ならどうするかを考える。(○つけ・理由書き)	5分		ワークシート
② 数名が発表する。	10分	○「入る」側・「入らない」側の両方の理由をできるだけたくさん引き出す。 ○人間関係の心情面だけでなく、SNS 講話・ルール作りで学んだことが活かされている発言も取り上げる。	
3 アサーショントレーニングを行う。			
Aさん・Bさんに、自分が「私(Dさん)」なら、どのように話しますか？			
① 自分の考えを書く。	8分		ワークシート
② 4人班で役割演技をしながら発表する。	8分	○なんでそのような言葉にしたのかの理由をできるだけ語らせる。	
③ 数組発表させる。	3分	○机間指導中にできるだけ多様な意見に触れておき、意図的に指名する。	
4 教師の話聞く。	5分	○アサーティブな注意の仕方「み・かんと・い・いな」を紹介し、今後、別の場面でも注意できるようなスキルとなるようにする。	資料② ※「イラスト版子どものアサーション」P52・53より
5 本時の感想を書く。	3分		

み …見たこと (事実)  
かん…感じたこと・考えたこと  
て …提案 (お願い)  
い …「いいです」という場合の返事  
いな…「いな (否)」という場合の返事と次のお願い

## 授業のポイント

ネット社会に生きる生徒には、次の2つの力が求められます☆\*:.o(≧▽≦)o..:\*☆

- ① **危険予知力**（トラブルの種を早期に発見し、回避する力）
- ② **課題解決力**（トラブルが発生してしまった時に、それを解決する力）

ネットの特性を理解

今回の授業では「タイムマシンに乗る」ことで、トラブルが発生する直前の場面に戻ります。ここで使う力は①の力です。トラブルを回避できるポイントを探すことで、その発生メカニズムを学習します。また、アサーションを用いて②の力を身につけます。今回はトラブル発生以前の場面ですが、用いるスキルは同じです。ネットの特性を理解しているとさらに、上手な解決のための言葉がけをできるようになります。

(自己主張の3つの型)

### A 受身的 B 攻撃的 C アサーティブ

ネットの中で誹謗中傷された場合、以上の3つにあてはめるとすると…

「A… 誹謗中傷されても、人間関係を壊したくないから黙って我慢をする」

「B… 誹謗中傷の場面から、離脱し一切その友達との関係を断ち切る」

しかしこの2つでは、何も解決しません。Aでは、自分が傷ついてしまいます(泣)、Bでは、相手から離れることはできるけど、誹謗中傷がなくなることはありません。ネットトラブルを解決するポイントとして、「自分も相手も大事にする」というアサーティブな主張が有効だということがわかります。Cの場合は、自分だけでなく相手も救うことができます。

「C… 相手の気持ちも理解しながら、トラブルを回避する具体的提案をおこなう」

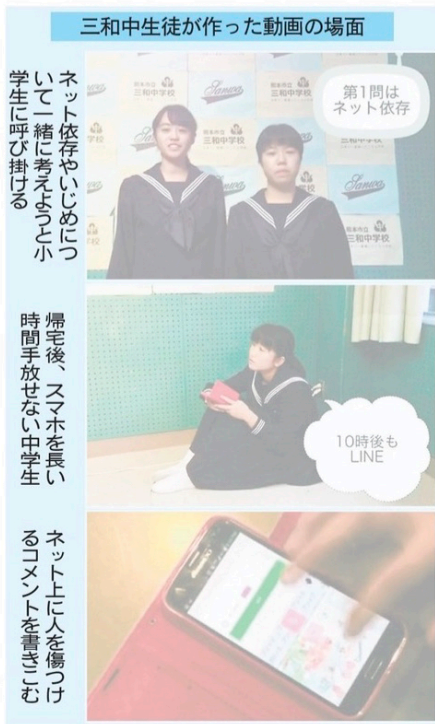
↑これは、交渉力でもあります。社会人基礎力の一つでもあります。

資料に見られるトラブルのポイントをあげておきます(´▽`)

- 自分が嫌と感じているのに写真を撮った。
- 許可なく画像をアップした。
- 誹謗中傷につながるコメントをつけるようになった。
- 他人の画像を勝手にダウンロードした。
- 他人の画像を勝手に他の人に回した。

# 「スマホの問題一緒に考えよう」

三和中ボランティアグループ 小学生に動画で呼び掛け



ネット依存やいじめについて一緒に考えようとして小学生に呼び掛ける

帰宅後、スマホを長い時間手放せない中学生

ネット上に人を傷つけるコメントを書き込む

スマホを持つ川元亜美さん(15)が「休日は何時間もスマホに触る」。持っていない福島水緒さん(15)と林田愛蘭さん(15)が「なんでそんなに触るの?」と尋ねたところ、「好きなアイドルの画像を見るのが楽しい。スマ

ホを持っていないと落ち着かない」と川元さんは答えました。3人は、いじめ問題も身近な話から考えました。ある生徒の無料通信アプリLINEの近況欄に「あいつ、まじウザイ」と書き込まれました。名指しはされていないため、生徒は「自分のことを言っているのでは」といっ

整理しました。HYT48メンバーの3年生3人はまず寸劇の筋立てを考えるため、自分たちの生活を振り返りながら、問題を整理しました。

HYTは「人の役に立ちたい」の略。情報モラル教育に取り組み田中慎一朗教諭の発案で、今春から活動しています。

スマホの問題を取り上げる動画を撮影する田中慎一朗教諭(右)と三和中の生徒＝熊本市西区



そう疑問暗鬼になり、傷ついたと言います。



三和中学生のつくった動画を見て、ネット上のいじめについて解決策を考える池上小児童

このエピソードをもとに、LINEに夢中になって睡眠や勉強の時間が短くなる中学生と、ネット上の悪口が広がっていくクラスのシナリオを作成。3人は演者にもなり、「スマホ依存やいじめはどうしたら防げるでしょう」と映像の中で呼び掛けました。動画は撮影した田中教諭が池上小の5、6年生89人に出前講座をして見てもらい、児童たちは互いに感想を話し合いました。「使う時間を自分で決めて、アラームを設定しておく」「言いたいことがあれば直接その人に言う」などと、解決策が提案されました。川元さんら3人は「スマホを使うと、つらい目に遭う場合もある現実を伝えなかった。小学生のうちからルールを考えて、友達を傷つけないでほしい」と話しています。(清島理紗)



## 中高生 「スマホの危険性知って」

高橋小の保護者を前に  
スマートフォンの利用  
実態や危険性を話す中  
学生(右) = 15日、熊本  
市西区



### 熊本市 高橋小 保護者に出前授業

子どもたちのスマートフォンの利用実態や危険性を、中高生が小学生の保護者に伝える出前授業が15日、熊本市西区の高橋小で開かれ、中高生の直言に保護者が家庭での対応を考えた。

近くの三和中で情報モラル教育に取り組む3年の1人と、卒業生で高校1年の3人が講師を務めた。市教育センター情報モラル部会研究員の田中慎一朗・同中教諭をコーディネーターに、保護者約30人が参加した。

田中教諭は無料通信アプリ「LINE(ライン)」

(福井一基)

などによる個人情報の流出や、コメント欄の書き込みがはじめにつながっている実態を紹介。「親がスマホの機能を制限でき、家庭でルールを決め、守らせてほしい」と呼び掛けた。

中高生は「持ち込み禁止の学校もみんな使っている」「ネット上でなく、面と向かって友人らと話し合える環境が必要」と訴えた。高橋小3年女児の保護者(37)は「持たせないのが一番だけど、上手な付き合い方も必要だと気付いた」と話した。

資料 1 1

	月日	曜日	時間・場所	会議名	検討内容
1	9月1日	火	15:30～ 於：三和中	第1回実行委員会	・実施計画案の共通理解 ・共同学習の機会の持ち方について ・今後のスケジュールについて
2	10月27日	火	16:00～ 於：三和中	第2回実行委員会	・当日のタイムスケジュールや進行計画の確認 ・役割分担・事前準備の確認
この間、田中先生の講話・授業に向けて、校区内の小学校3校で事前アンケートを実施					
3	10～11月中 ※具体的な日程を27日までに決めていただく。  ①11月6日 ②11月10日 ③11月12日 ④11月16日	金 火 木 月	午後 田中先生の空き時間に合わせる形で。  於：城山小 (体育館)	<b>SNS等の情報に関する授業</b> (全3～4コマ…最終コマがフォーラム) フォーラムに出席する城山小学校の小学6年生全員が対象 <b>内容について</b> ①情報端末使用における問題・課題についての学習(ブレスト) ②問題・課題解決に向けて考え、意見を持つ ③ルール作りに向けて ④ルール作り	
4	11月19日	木	9:00～ ～ 10:30 於：池上小	<b>SNS等の情報に関する講話</b> 5・6年生(100人程度)が講話対象 ※池上小のフォーラムの前段となるような内容との指定	
5	11月15日 ※高橋小フェスタ	日	15:40～ ～ 16:30 於：高橋小	<b>SNS等の情報に関する懇談会</b> フェスタへ来られているPTA(特に低学年)や地域の方へ中学生が教える形 ※保護者の不安に答える形…NHK・熊日取材あり	
この間に、各学校で、小学生の視点からルール作り(完成)をしていただき、パネリスト名とともに、11月27日までに、三和中に連絡していただく。応用紙・データで土山に提出。					
6	11月27日	金	16:00～ 於：三和中	第3回実行委員会	・進捗状況の確認 ・当日の進行・役割の確認
7	12月4日	金	6限 体育館	事前授業	対象：2年生 ※内容は検討中(授業者:田中先生)
8	12月6日	日	13:45～ ～ 14:45	子どもフォーラム	